

第2章

新潟市の農業・農村の将来像





新潟市の農業・農村の将来像

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

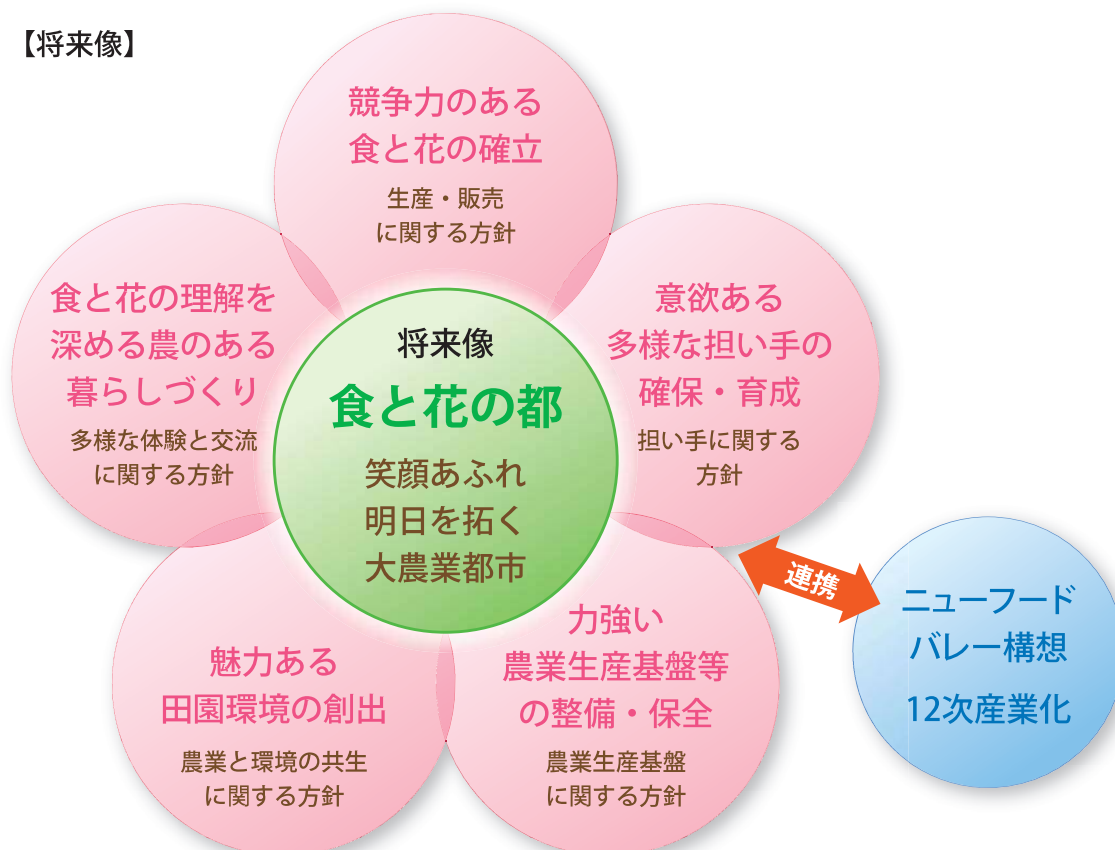
第6章

第7章

第8章

- 本市は、新潟市総合計画のもと、豊かな自然環境や広大な農地を有し、さらに高次都市機能の集積が進んでいるという特徴を活かし、高次都市機能と田園のゆったり感が調和・共存する田園型政令市を目指したまちづくりを進めてきました。
- この総合計画の農業に関する部門計画である前農業構想では「食と花の都～日本一豊かでにぎわいのある大農業都市～」を将来像に掲げ、様々な農業・農村の振興施策に取り組み、「アグリパーク」や「いくとびあ食花」を中心とする教育ファームの推進、ニューフードバレー構想の推進など一定の成果を挙げてきました。
- これらの施策については、評価を行い本市の現状と課題を踏まえて見直し、田園型政令市のイメージである「食と花の都」の実現のために引き続き取り組むことが望まれます。
- 本構想の将来像は田園型政令市のイメージである「食と花の都」を継承し、生産・販売、担い手、農地、環境、交流に関する5つの基本方針のもと「にいがた未来ビジョン（新潟市総合計画）」におけるニューフードバレー構想や、12次産業化の取り組みと連携しながら「笑顔あふれ 明日を拓く大農業都市」を目指します。

【将来像】



将来像

《食と花の都～笑顔あふれ 明日を拓く大農業都市～》

- **笑顔あふれ** : おいしく、新鮮で安心・安全な食べ物や農業体験など新潟市の「農業」を、市内をはじめ国内・海外に提供し続けており、食生活が豊かになり農業とのふれあいの場も増え、みんなが新潟市の農業の恵みを享受しています。また、農業が身近にある暮らしに市民が誇りと愛着を持ち、笑顔が絶えず、全国に自慢でき、人々が憧れる暮らし（ライフスタイル）が確立されています。
- **明日を拓く** : 農業におけるさまざまな課題を克服し、厳しい環境に打ち勝つ強い農業が確立され、明るい未来に向かって発展しています。
- **大農業都市** : 広大な農地を活かし、多様な農畜産物を生産・供給する大農業都市として成長し続け、強く、しなやかな農業の担い手が確保され、我が国の農業をリードしています。

ニューフードバレー構想

- 新潟ニューフードバレー構想は、豊富でおいしい食材に恵まれた新潟の強みを活かし、農業はもとより食品関連産業の集積地として発展してきた背景を基に、食産業ナンバーワン都市を目指して、以下の7つの戦略に取り組むもので、にいがた未来ビジョン（新潟市総合計画）の施策として位置づけられています。

目指す姿 : 本市の産業をリードする食産業全体が連携し、成長産業として一体となり発展

7つの戦略 : ①フードデザインの普及・実践（食の売れる商品・仕組みづくりの普及・実践、新商品の開発・販路拡大）、②新潟ブランドの構築・情報発信（食のブランド価値の向上、域内・外への販路拡大）③域内・外ネットワークの構築（食産業や大学・研究関連とのネットワーク構築）、④農商工連携と6次産業化の推進（農商工連携・6次産業化による地域ビジネスの展開や新たな産業の創出）、⑤食品リサイクルの推進（循環型社会の実現に向けた食品リサイクルモデル事業の推進）、⑥高度な研究開発基盤の整備（産学共同研究の推進、知財の集積、研究者等の人材ネットワークの構築）、⑦高機能・高付加価値開発と人材育成（企業・大学・研究機関による研究開発、人材育成）

12次産業化

- 第1次産業である農林水産業が、農畜産物の生産にとどまらず加工品の製造・販売や直売所、農家レストラン等の地域資源を活かしたサービスなど、第2次産業や第3次産業まで行う「6次産業化」に、①子育て、②教育、③福祉、④保健・医療、⑤エネルギー・環境、⑥交流の6つの視点を加えて、にいがた未来ビジョン（新潟市総合計画）において「12次産業化」と呼んでいます。

